

ごうホームクリニック

伊藤剛

院長



052-803-5005

gohome-clinic.com

愛知県名古屋市天白区原1-1410
サンモール原103

ビジョン

どこに住んでいても、どんな病気や障害があっても、安心して自分らしく過ごせるように。患者さんご家族の「納得できる人生」を24時間365日支えます。

注目の在宅医療機関へのインタビュー取材「PICK UP！在宅医療機関」の第22回目は、2019年から名古屋市天白区にて「ごうホームクリニック」を運営されている伊藤剛院長です。これまでの医師としての歩み、在宅医療に転じて、そして今後への展望について、その思いを熱く語っていただきました。（2025年6月取材）

多彩な経験を経てたどり着いた在宅医療の道

まず、医師を目指されたきっかけについてお聞かせください。

一番大きなきっかけは、5歳年上の姉の存在ですね。姉が先に医療の道に進んでいたのも、その姿が私にとっての自然なロールモデルになっていました。また、子どもの頃にテレビで見た救急医療のドキュメンタリー番組に感銘を受けたり、自身がアトピー性皮膚炎で皮膚科に通っていた経験も、医療という世界を身近に感じるきっかけになったと思います。



医師としてのキャリアは、どのような領域からスタートされたのでしょうか。

大学を卒業後、初期研修では整形外科に興味を持ちました。外傷を治療する姿に、漠然とした医師のイメージを抱いていたんです。しかし、実際に現場で向き合うのは高齢者の骨折が多く、少し自分の思っていたイメージと相違があったと感じました。

次に進んだのが循環器内科です。カテーテル治療など、ダイナミックな医療に面白さを感じていましたが、その一方で「この検査は本当に全員に必要なのだろうか」という疑問も感じていました。年齢や状態に関わらず画一的な治療方針になりがちな点に、少し違和感を覚えたんです。

その後、小児科、そして精神科へと専門を深めていかれたそうですが、その経緯について詳しくお聞かせください。

循環器内科での経験から、より患者さん一人ひとりの人生に寄り添う医療への関心が強まりました。そんな時に心に浮かんだのが小児科です。実家が学習塾を経営していたため、常に子どもたちの声が聞こえる環境で育ちました。そのため、子どもはもちろん、その親後さんたちと話すことにも慣れていましたし、全く抵抗がありませんでした。何より、新生児という人生の始まりから関われる小児科の仕事に惹かれ、そこからJA愛知厚生連 豊田厚生病院の小児科で医師としてのキャリアを本格的にスタートさせました。

一方で、研修で経験した精神科の面白さがずっと心に残っていました。「人の人生を丸裸にする」ような深い関わりの中から治療が生まれていく。その奥深さに心が奪われました。また、小児科が「新生児から」であるのに対し、精神科は「全年齢」を対象にしている点にも大きな魅力を感じていたんです。その研修当時に感じた思いを捨てきれず、その後愛知医科大学病院の精神神経科に移り、専門性を高めていきました。

そこからどのようにして在宅医療の道に進まれたのですか。

精神科医としてのキャリアを積む中で、後輩から在宅医療のアルバイトを紹介され、2013年から週に一度、在宅医療の世界に足を踏み入れました。最初は入院患者さんを診る感覚で、個人個人のニーズを汲み取れていなかったと思います。しかし、在宅では患者さんの生活そのものが医療の対象です。その方の生き方や物事の感じ方にまで寄り添う必要があるのだと現場で学んでいきました。

そして2016年、とくしげ在宅クリニックみかわの院長に就任し、本格的に在宅医療に携わることとなります。しかし、そこでは自分の目指す医療と組織の方針との間に少しずれを感じるようになりました。もっと患者さんや地域の多職種の方々と深く関わりたいという思いが強くなる一方で、組織の制約に窮屈さを感じるようになったんです。その経験から「自分に裁量権がなければ、理想の医療は実現できない」と痛感しました。



想いと繋がりが「めぐる」、ごうホームクリニック設立へ

2019年に「ごうホームクリニック」を設立されましたが、そのきっかけは何だったのでしょうか。

前職での経験から、一度は在宅医療の現場を離れることも考えましたが、そんな私を思いとどまらせてくれたのが、地域の仲間たちの存在でした。これまで一緒に仕事をしてきた訪問看護師さんをはじめ、多くの方々が「先生と一緒にやりたい」と温かい声をかけてくださったんです。その言葉に強く背中を押され、「自分で理想のクリニックを創ろう」と独立を決意するに至りました。

設立時の体制や、特に印象に残っているエピソードがあれば教えてください。

はじめは、看護師1名、事務長1名、医療事務2名、そして私の合計5名という体制でスタートしました。驚いたことに、前のクリニックで担当していた多くの患者様が「先生に続けて診てもらいたい」と当院についてきてくださったんです。本当にありがたいことでしたが、おかげで開業初日からトップスピードで、クリニックのルールを整備する時間もないほど忙しかったのを覚えています。



法人名の「めぐる」には、どのような想いが込められているのでしょうか。

クリニックの名前を考えると、自分の名前や地名ではなく、私たちの活動のコンセプトを表現したいと、…



続きはQRコードからアクセスしご覧ください → → →